

第 20 回国際ガラス会議 2004 (9 月 26 日～ 10 月 1 日, 京都) の紹介

京都工芸繊維大学 工芸学部 物質工学科

大田 陸夫

20th International Congress on Glass 2004 (XXICG)

Spt. 26～Oct. 1, Kyoto

Rikuo Ota

Department of Chemistry and Materials Technology,
Faculty of Engineering and Design, Kyoto Institute of Technology

国際ガラス委員会 (International Commission on Glass) は種々の分野のガラス科学者と技術者の交流と友好を推進するために 1933 年ヨーロッパで結成された。翌年第 1 回の国際ガラス会議 (International Congress on Glass, ICG) がベニスで開催されてから 3 年に一度開かれている。その間年会 (Annual Meeting) が開かれている。日本は 1950 年に国際ガラス委員会に加盟した。現在の代表機関は日本セラミックス協会であるが、もちろん実質はガラス部会が担っている。本年までの加盟国は 39 カ国に達している。年会費はガラスの生産高 (トン数) に応じてきめられており、日本は米国、フランス、ロシア、中華人民共和国、アルメニアとともに最高ランク 1172 ユーロとなっている。2004 年には第 20 回ガラス会議が日本で開かれる。開催場所は国立京都国際会館であるが、実は日本誘致は今年がはじめてではない。ちょうど 30 年前、1974 年第 10 回大会が京都国際会館で開かれている。曽我先生が事務局と

して活躍されていたのを思い出す。今年の 1 月パリでの ICG 運営委員会で京都大会の準備状況を報告したとき、昨年 9 月来日した際、会議場を視察した現 ICG 会長シェーファー氏が大田教授は 30 年まえの京都大会の運営経験があり、今度で 2 回目だから大丈夫だと紹介されておおいに恐縮したものである。前回はなにもしていないのだが、宣伝文句としてはおもしろかろう。国際ガラス会議はわたしにとって外国旅行のいい名目になった。1983 年第 13 回ハンブルグ大会から参加し始めた。はじめてヨーロッパに行くこのチャンスを生かさない手はないと、3 週間にわたってドイツ、スイス、フランスなどを河本さん (神戸大) と巡り歩いた。そのとき持ち帰ったドイツパン一個が今も家にある。別段の殺菌措置はとっていないのだが、いまだびかびかである。ドイツパンはすごい。18 年たってもかびひとつ生えない。シェーファー夫妻と食事しながらこのことを明かすと大笑いとなった。

〒606-8585
TEL 075-724-7565
FAX 075-724-7580
E-mail: Ota@chem.kit.ac.jp

第 20 回国際ガラス会議 2004 (XXICG2004)
京都大会の概要は以下の通り。

会場：国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)
交通：地下鉄烏丸線「国際会館駅」下車。JR
京都駅から 20 分。

日程：

- 2004 年 9 月 26 日(日) 歓迎パーティー (会館庭園)
- 27 日(月) 開会式 (特別講演),
6 会場口頭発表 + ポスター発表
- 28 日(火) 6 会場口頭発表 + ポスター発表
- 29 日(水) 京都ツアー(金閣寺, 竜安寺, 天竜寺, しょうさん他)
- 30 日(木) 6 会場口頭発表, 晩餐会 (会館)
- 10 月 1 日(金) 6 会場口頭発表, 閉会式

予定参加人数：800～1000 名

会議にふくまれるテーマ：

- ガラス産業一般：家庭用，光学用，電気電子用，繊維および板ガラスなど市販用ガラスおよび分科会（TC）活動。
- ガラスの製造：原料，溶解，成形，脱泡，酸素燃焼溶解，耐火物，溶炉設計，測定機器，リサイクル，廃棄ガラス。
- ガラスの性質：拡散・粘度，機械的性質，電気的性質，光学的性質，熱的性質，化学的性質。
- ガラスおよびゲルの結晶化，核生成，結晶成長，分相，ガラスセラミックス，ガラス化傾向。
- ガラス表面：表面の性質，分析，コーティング，表面改質。
- ガラス，ガラスセラミックスおよびゲルの構造：回折法，分光学的研究，計算機シミュレーション。
- ゾルおよびゲルの科学と技術。
- バイオ材料および生物学的複合体：バイオメディカル，バイオテクノロジー応用。

- 新種ガラスおよび非酸化物ガラス：フッ化物，カルコゲナイド，有機-無機ハイブリッド，ノンコンベンショナルガラス，ガラスフリット，ガラスペースト。
- オプトエレクトロニクスおよび通信用ガラス：光ファイバー，ウエイブガイド，希土類添加ガラス，放射線用ガラス，感光ガラス。
- ガラスの美術，歴史，遺跡，分析技術を含む考古学。
- ニューガラスフォーラムによる「ガラスのナノテクノロジー(設計，加工および応用技術)に関するシンポジウム」。

なお国際ガラス委員会には 26 の分科会 (TC) があり，日本からは 34 名の委員が登録されていて，活発な活動成果は第 20 回 ICG2004 京都大会でも，展示発表されるはずである。

XXICG2004 進行予定：

ファーストアナウンスメント

2002 年 6 月

予備登録

2003 年 4 月まで

セカンドアナウンスメント

2003 年 6 月

講演申し込み (アブストラクト提出)

2003 年 11 月

講演受理通知

2004 年 2 月

登録 + 参加登録費

2004 年 5 月

原稿 + Extended アブストラクト提出

2004 年 5 月

ファーストアナウンスメントは 6 月中に皆様のお手元に届く予定である (図 1 参照)。6 月にサーキュラーを送ったのは第 19 回 ICG2001 エジンバラ大会の参加者のうち日本セラミックス協会ガラス部会員をのぞく 680



図1 第20回国際ガラス会議2004のファーストア
ナウンスメント表紙。
京都国際会館と宝ヶ池。バックは比叡山と東
山連峰。

名、日本セラミックス協会ガラス部会員 778
名、第10回ゾルゲルワークショップ1999
(YOKOHAMA) 参加者 210 名、計 1688 名で
ある。そのほか 2002 年 6 月の ESG モンペリ
エ大会 (ICG 年会) 参加者へ 130 部、ICG 運
営委員に 20 部、ICG 理事に 30 部手渡した。
さらに ICG 加盟国の 18 組織の事務局宛に
1705 部送るところである。国内の組織委員会
委員には総計 1055 部郵送している。なお 300
部あまりが会議業務を委託している日本コンベ
ンションサービス㈱においてある。連絡あり次
第お送りしたいと思う。もちろんホームページ
をご覧になってもよい。

なお参考のために組織委員会メンバーおよび
連絡先を以下に示した。曾我先生が ICG 会長

であった 1994～1997 年中に XXICG2004 の日
本誘致が実現したわけであるが、曾我先生は組
織委員会から辞退された。我々の責任はさらに
重いものになった。

第20回国際ガラス会議2004組織委員会

委員長 大田 陸夫 京都工芸繊維大学
平尾 一之 京都大学
伊藤 節郎 旭硝子㈱中央研究所
国分 可紀 ㈱日本セラミックス協会
近藤 敬 ㈱旭硝子総研
近藤 敏和 日本板硝子㈱
牧島 亮男 北陸先端科学技術大学院
大学
松下 和正 長岡技術科学大学
野上 正行 名古屋工業大学
小川 晋永 ガラス産業連合会
辰巳砂昌弘 大阪府立大学
横尾 俊信 京都大学化学研究所

事務局：ICGXX Secretariat

Kyoto Institute of Technology
Sakyo-ku, Kyoto 606-8585
Tel +81-75-724-7576,
Fax +81-75-724-7580
e-mail: icgxx@convention.co.jp

ホームページ：[http://www2.convention.jp/
icgxx/](http://www2.convention.jp/icgxx/)

第20回 ICG2004 京都大会のロゴマークにつ いて。

2001 年 3 月の国際会議準備委員会でロゴ
マークの作成を命じられた。日本と京都のイ
メージをどうあらわすか。日本には技術先進国
としての近代性と東洋的なローカル色が共存す
る。京都には日本文化の情緒的なイメージが連
想されるが、同時にベンチャー企業の発祥の地
でもある。日本はやはり陽の出づる国なのだ。
太陽をあらわす赤いベルトの天蓋のしたに京都
(文化遺産)をあらわす三条大橋。向こうにハ
イテク産業のビルなどいろいろ考えた。とこ

ろが 2001 年の ICG エジンバラ大会のロゴマークのことを忘れていた。ここに赤いベルトの天蓋が使ってあったのだ。やり直し。サクラは日本を象徴するからいいが、いたるところに使われている。ガラス会議と関係がない。光ファイバーケーブルの断面をデザインしているうちにサクラのイメージと結びついた。ファイバーを透明で表し、中心部を赤くしたのは日の丸のイメージもある。さらにガラス溶解炉などのイメージを重ねることができる。日夜考えて 1 ヶ月で完成したが、楽しいものであった。その後 ICG ロゴマーク（エジプト象形文字「光輝」の意）の色はブルーときめられていることを知った。

第 10 回 ICG1974 京都大会以来の ICG 開催地を示す。なつかしく思い出される人もいるだ

ろう。

- 第 10 回 京都（日本）1974 年 7 月
- 第 11 回 プラハ（チェコスロバキア）1977 年 7 月
- 第 12 回 アルバカーキ（米国）1980 年 7 月
- 第 13 回 ハンブルグ（西独）1983 年 7 月
- 第 14 回 ニューデリー（インド）1986 年 3 月
- 第 15 回 レニングラード（ソ連）1989 年 7 月
- 第 16 回 マドリッド（スペイン）1992 年 10 月
- 第 17 回 北京（中国）1995 年 10 月
- 第 18 回 サンフランシスコ（米国）1998 年 7 月
- 第 19 回 エジンバラ（英国）2001 年 7 月
- 第 20 回 京都（日本）2004 年 9 月